



# 大 幼



令和5年度

園長だより No.6

令和5年 11月 2日

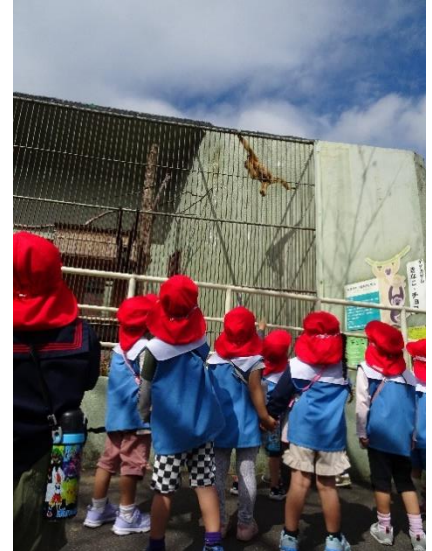
## 多様な動物さん「こんにちは！」

例えとすれば、小学生の修学旅行にあたるのでしょうか、3歳児と共にラクテンチへ園外保育に行ってきました。3歳児と一緒に歩くと、普段何気なく歩いている階段や坂道がとても危険に感じました。

園児たちは、動物たちの様子におっかなびっくりしながらも、ふれあいを楽しんでいました。伝統的なアヒルの競争やライ君の弟にも出会い、生き物たちの生態を感じることができたのではないかと思います。

帰ってきてからは、出会った動物さんたちを、大きな紙にお話しながら描いていました。フラミンゴは縦に長いね。ひよこはちっちゃいね。と対話を交えて描くことで、大きさを考えながら描きました。

年中さんと年長さんは、アフリカンサファリに行き、多様な動物のエネルギーを大自然の中で肌で感じたことでしょう。



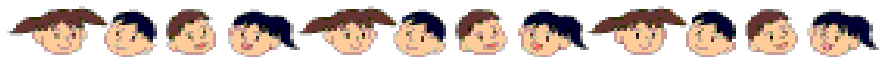
## 附属幼稚園という宝箱の中

10月の大きな行事が終了しました。運動会に続き、保育研究協議会も終了しました。両行事ともに保護者の方にお手伝いいただいたことで、安心して執り行うことができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

附属幼稚園には、保護者やご家族、大分県内外の保育者や行政関係者等、連日多くの方が足を運んでいます。子どもの主体性を重視した園児の姿に学び、附属幼稚園をモデルとしている証です。

附属幼稚園は、これからもそんな期待に応えていかなければいけません。

## 子どもたちの学びを支える



園児たちが園外保育に出かけている間に、ボランティアのお母さんたちが保育室やその周辺を掃除してくれました。おかげで、整った環境の中で、園児たちは思いっきり遊ぶことができました。

私は、毎朝園児の名前を呼びながら挨拶をします。不意を突かれると回路がフリーズすることがありますが、お許しください。これは、承認欲求を刺激し、附属幼稚園は私の居場所だと安心感を与える営みです。

関係性が薄いように見える2つの例ですが、子どもの学びを支える最も大きな要因は、環境をつくることと考えます。一朝一夕にはできないものが環境です。ですから、日々の積み重ねを大切に、継続し日常化することが大きな学びになります。